

序^{*1}

牛場 大蔵^{*2}

日本医学教育学会が編集して世に送る医学教育白書は、これが第4回目である。

第1回は1972年の「医学教育」第3巻第1号に「日本医学教育の現況」という特集の名の下に、学会が初めて「白書」的としてまとめたものである。第2回は1978年7月に「医学教育」別冊として刊行されたもので、「医学教育白書」と名づけられた。第3回は1982年7月に同様に別冊として刊行されている。

いまそれらの内容をみると、第1回の時には医師の不足、医学校の新設と定員増加の必要性、新設に伴う教員不足や資金問題など、主として量的の問題に焦点があてられたが、第2回では医学校増設が現実になったことにかかわる諸問題が中心となり、第3回の時にははやくも医師過剰の予想が論ぜられてきたことがうかがわれる。

今回の白書は、主として1982～85年の事項を取り扱ったが、その構成は大綱において前回までのものに準じている。すなわち、年表と総論的事項に続いて、入学者選抜、学部教育、国家試験、卒

後教育、生涯教育という順序の線が中心となり、それに種々の特殊な区分けや追加がなされている。また、できるかぎり多方面の資料が多くの協力を得て集められた。

それぞれの項目ではわが国の現状が詳述されているが、なかには学会の行った活動も分散的に含まれている。しかし、後者は範囲が広くなりつつあるので、後段に「学会の活動状況」としてまとめられた。また前回まで別項とされた「ティーチャー・トレーニング」は、今回は「学会の活動状況」の中に入れられている。

本白書が取り扱った時代は、医学・医療界にとってきわめて多事多端のときであった。医学教育がそれに対応して変化しないことは許されず、社会のニーズに応じて積極的な質的転換が要望されることになったのは当然であった。いまや医学教育はこの大きな挑戦に対処すべき絶対の任務を帯びているものといえよう。その努力の詳細が本文の各項にうかがえれば幸である。

*1 Preface.

キーワード：日本医学教育学会・医学教育白書

*2 Ushiba, Daizo 慶応義塾大学名誉教授，日本医学教育学会会長